

成果の説明書

(氏名)増田 正	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①研究上の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 29 年度公立大学法人高崎経済大学特別研究助成金を受け、研究課題「計量テキスト分析による中核市議会の審議内容の可視化に関する研究」に取り組み、研究成果として、「我が国地方議会における政治・行政関係の計量テキスト分析」(『地域政策研究』20-3, pp.1-19, 2018.2) を発表した。また、平成 29 年 3 月 16 日の日本地域政策学会政治・行政部会研究会において「議員発言と行政答弁から見る地方自治体の政策課題と改革動向」の報告者を務めた。・日本選挙学会より執筆依頼を受け、「2017 年フランス大統領選挙及び国民議会議員選挙における投票行動」を 2 月末に脱稿した。2018 年 6 月公刊予定である。 <p>②教育上の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・主権者教育を最重点課題とし「TCUE 投票ファクトリー」の顧問として、学生とともに投票啓発活動等に取り組んだ。また、これまでの継続的な投票啓発活動の実績が認められ、群馬県選挙管理委員会からの推薦を受け、11 月より「総務省主権者教育アドバイザー」に就任した。・ゼミでは、平成 29 年 12 月 1 日、群馬県議会主催の「ぐんまシチズンシップアカデミー」に 3 年生、4 年生 20 人が参加し、身近であるはずなのに縁遠く感じられる県議会を訪れ、本会議の傍聴や一部の県議と意見交換をした。学生たちにとって、単に紙の上での知識でしかなかった地方政治の現実が、アカデミーへの参加を通じて実感できたようである。学生参加者数は、本学が一番多かった。 <p>③社会貢献上の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・高崎市男女共同参画審議会委員としては 9 年目、会長として 5 年目である。第 4 次計画を市長に答申した。・日本地域政策学会常任理事 (2 期目、編集担当)、日仏政治学会幹事 (2 期目) として、引き続き、学術研究の促進に努めている。・平成 29 年 10 月 22 日、衆議院議員選挙投開票日において、群馬テレビの選挙開票速報ゲスト解説者を務めた。(通算 16 回目)・平成 29 年 10 月 7 日、衆議院群馬 2 区における公開討論会 (於伊勢崎市赤堀芸術プラザ) のコーディネーターを務めた。(通算 6 回目)	
<p>2 その他の事項</p> <p>大学行政</p> <ul style="list-style-type: none">・地域政策研究科長として、博士後期課程における社会人長期履修制度の必要性を訴え、導入を主導した。他方、早期履修者制度への初の応募 (3 名) もあり、履修者の多様化が進んだ。年間を通じて研究科長入試相談業務を行った結果、正規生、科目等履修生への受験につながった例が見られた。引き続き、継続していきたい。	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <ul style="list-style-type: none">・専任教員の入れ替わりがある中で、年齢構成に配慮しつつ、開かれた活力ある研究科の構築を目指して、若手教員に積極的に声掛けをしていきたい。とくに観光分野のカリ	

キュラムを拡充することで、志願者増に繋げていきたいと考えている。また、教員の負担に配慮しつつ、社会人が履修し易いカリキュラムや時間割編成を実現させていきたい。

- ・教育、研究、社会貢献の各分野において、今年度の実績以上の成果を上げられるように鋭意努力したい。